

令和 6 年度文化芸術振興費補助金メディア芸術アーカイブ推進支援事業

【事業名】 古川タクの作品・活動アーカイブ

【団体名】 有限会社タクンボックス

【概要】 1964 年から個人作家として短編アニメーションを制作し、国際映画祭で評価を得てきた古川タクの作品および関連資料のアーカイブを実施する。1960 年代の草月アートセンターを中心とした芸術文化に端を発する個人制作アニメーションのアーカイブは、関係者の高齢化による内容把握の困難さと資料劣化が差し迫る危機的な状況にある。本事業では草月アニメーション・フェスティバルに参加し、国際的なアニメーション作家として活躍を続ける古川タク氏の活動を軸に、古川氏の自宅に置かれているフィルム・資料を適切な環境下に移動し、継続的な調査、管理、公開を行う。とくにフィルムデジタル化、資料整理、リスト作成、作家ヒアリング、ウェブサイトでの資料公開、簡易アーカイブマニュアルの頒布を行い、60 年代以降の個人制作アニメーション作品の文化的背景、資料価値を伝え、各資料へのアクセス性の向上を図る。

【体制（令和 4 年度～）



【公開】 ※全て無料

● 「INTO ANIMATION 8 in NARA」(令和 6 年 10 月 14 日・奈良県立図書情報館)

<https://into-anim.localinfo.jp/posts/55064912?categoryIds=10237414>

- デジタル化したアニメーションの上映、トーク

古川タク
上映と
トークイベント
in NARA プログラムF

10.14 (月・祝)
14:00～16:05 (開場 13:30)
1F 交流ホール

プロフィール
1941年三重生まれ。TCJ、久里実業漫画工房を経て70年代よりフリーランスのイラストレーター、アニメーション作家として活動。新千歳空港国際アニメーション映画祭名譽実行委員長、日本アニメーション協会(JAA)名誉会長。2004年業績褒章。ヒトコマドローイング作品集「TAKUPEDIA」で2024年度日本漫画家協会漫画賞、カズーン部門大賞受賞。

古川タクの作品一覧

番号	作品名	年
01	ヨーヨー・ブレイド	1977
02	モーターボールと虫	1978
03	スリム	1980
04	ワックザ・サム・ビーン	1985
05	フレイッシュ	1987
06	TaxiZAN	1990
07	上巻物語	1994
08	Teddy	1995
09	はなのほろし	1997
10	ヒトコマ劇場	1998
11	フィクション 狼男山	2005

●第7回アーカイブ研究講習会「アニメーション・アーカイヴの実践」（令和6年11月14日・東京都写真美術館）

-TAKU FURUKAWA ARCHIVE の活動紹介

1_資料整理1
・フィルム（16mm、35mm）
約90本
国立映画アーカイブ寄贈（進行中）
★2023年度 CM作品をレストア



「日産ディーゼル」



1_資料整理2
・磁気テープ（VHS、BETACAM、HDCAM）、ディスク（CD-R、DVD-R）、デジタルデータ
*TV番組、CMなどのクライアントワーク



●「古川タク アニメーションをめぐるお話」（令和6年11月23日・三重県立美術館）

https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/000282040_00002.htm

-アーカイブ資料のスライド紹介を交えた講演、上映を実施。



●「はじめてのアニメーション「驚き盤」をつくろう！」（令和6年11月23日・三重県立美術館）

https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/000282040_00002.htm

-アーカイブ資料を活用した子ども向けワークショップの開催



●恵比寿映像祭 2025（令和7年1月31日～2月16日・東京都写真美術館）

<https://www.yebizo.com/jp/>

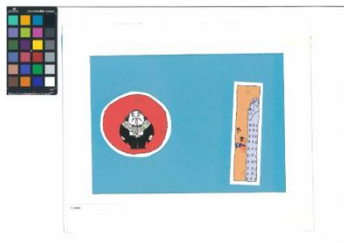
- 《驚き盤》装置（1975）修復、展示および発展作品の展示
- 〈imazoo〉《横綱土俵入り》（1979）大阪ソニータワーで開催された映像インスタレーションの再制作、展示
- 《ニッケル・オデオン・動画劇場》（1988）修復、展示、インタビュー映像の公開（インタビュー映像は東京都写真美術館の YouTube チャンネルでも公開予定）



●ウェブサイト「TAKU FURUKAWA ARCHIVE」

<https://archiveanimation.wordpress.com/>

- 作品リスト：「短編アニメーション作品」（2024 年度版）
- 作品リスト：「展覧会・上映会」（2024 年度版）
- 「みんなのうた」管理資料のサムネイル公開
- 「今日のアーカイブ」Instagram での管理資料の公開



『切手のないおくりもの（1996 年版）』
1996/6～7月
うた：財津和夫

【成果物】

- 資料リスト：「短編アニメーション中間素材、イラストレーション、映像データ」2024 年版（新規カタログ ID1200 点含む）
- 作品リスト：「短編アニメーション作品」（2024 年度版）
- 作品リスト：「展覧会・上映会」（2024 年度版）
- 記録（映像・文章）：オーラルヒストリー3 点

【文化的・社会的・経済的な意義】

整理資料、デジタルデータの活用および無料公開により、個人制作アニメーションの歴史

的・芸術的な文化価値を伝える。

1960年代から個人アニメーション作家として活躍する古川タクの作品資料を整理、目録化し、一部を公開した。これにより70～80年代におけるフィルムを用いた個人制作アニメーションの表現性、文化的背景への関心を高めることを目指した。

とくに、三重県立美術館、東京都写真美術館による協力のもと、古川タクのこれまでの活動や作品を一般に向けて無料で紹介、展示し、より広い裾野に向けて国内短編アニメーションの歴史的、文化的価値を提示した。

70年代に制作されたデジタルデバイスを用いたアニメーション・インスタレーションの再制作、公開による映像史研究への貢献。

東京都写真美術館が収蔵する古川タクの立体作品《ニッケル・オデオン・動画劇場》

（1988）の修復（マイグレーション）を行い、「恵比寿映像祭 2025」において展示、およびインタビュー映像の公開を行った。未調査の事柄が多い70-80年代における文化間交流のスポットだった「大阪ソニータワー」や「NEWZ」についてもヒアリング記録を得ることができた。

「恵比寿映像祭 2025」では映像研究者・橋本典久氏の協力のもと、1975年に制作された「驚き盤」装置3台の修復、円盤の再制作も行い、展示した。さらに古川タクの「驚き盤」装置の特性を分析した、橋本氏による新型「驚き盤」の制作、展示を行い、視覚装置研究の成果事例ともなった。

アニメーションアーカイブの簡易マニュアル頒布により、個人アニメーション作家の資料保護、保管を推進する。

高齢化が進む個人アニメーション作家や、その周囲の人々が作品を管理するために参照できる簡易マニュアルを作成し、日本アニメーション協会に共有するとともに、一般公開を続けている。

本マニュアルは専門家の助言に基づきながら、一般家庭においても作業可能な内容を示すことで、個人が抱える重要な資料を保護し、散逸防止になることを目指している。アーカイブには厳密な規則があるのではないかとという作業者の過度な不安を払拭し、平易な読み味になることと、安価な用具を紹介し、実践的な内容になることを心がけた。美術館関係者およびアニメーション・アーキビストである山川道子氏（Production I.G）、久保仁志氏（慶應義塾大学アート・センター）のサポートを受けて作成した。

【残課題】

次年度以降の業務として、下記を検討している。

-デジタルデバイスを用いた2作品《ニッケル・オデオン・動画劇場》、〈「驚き盤」装置〉の修復レポートの制作・公開。

-古川タクの作品・活動の年表、データベースの制作・公開。